

入監中勞動及ヒ處罰	明治何年月日何々ノ勞動アリ 明治何年月日何罰ヲ行フ
書信贈答ノ年月日	明治何年月日何國郡 <sup>町</sup> 村住親屬若クハ朋友ニ書信來
當該官ノ氏名	判士長及審事ノ氏名
事變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監
終結	明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行 又ハ他監押送
用紙美濃紙	
監獄長(檢印)己決囚名籍	主檢 何等書記氏名印
隊號兵種本管	某管下國郡區 <sup>町</sup> 村番地住族又ハ某子弟
產地族籍氏名	何國郡區 <sup>町</sup> 村 隊號職名
年齡	官 氏 名 某年 月 日 生 當何年何月何年何月
職業及ヒ親屬	職業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無
刑名及ヒ宣告ノ月日軍法會議ノ名稱	何刑若干年月日 明治何年月日何軍法會議ニ於テ宣告

入監ノ年月日	明治何年月日午前 後何時入監
犯由ノ大略及ヒ犯數	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス若シ再三犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ某軍法會議ニ於テ何刑ニ處セラレ
身材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
容貌音聲	面體眉毛且目鼻口ノ形容面色ノ黑四肢ノ白姿態其他痘斑癩子癭瘤黑痣癩風天鯨創痕ノ類及ヒ音聲ノ高低 <small>オホス</small> チ <small>オホス</small> モ細緻ニ具載ス
教育及ヒ宗門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲ爲スヲ得或ハ善ク讀書ヲ爲ス何宗或ハ宗門不詳
入監中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信贈答ノ年月日	明治何年月日何國郡 <sup>町</sup> 村住親屬若クハ朋友ニ書信來
假出獄	明治何年月日假出獄
事變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監或ハ何ノ罪ヲ犯シ復タ未決監ニ入ル
終結	明治何年月日滿期放免又ハ特赦

○第六類○治罪法○陸軍監獄署官員服務概則 下七百七十三



月名	期限	起	床	就	役	小	憩	午	飯	罷	役	晚	飯	還	房	服	役	計	
一月	午前七時 〇二分	午前八時 〇二分	午前第十 時ヨリ十 分時間	正午十二 時ヨリ五 十分時間	午後三時 三十分	一時二十 八分間	午後四時 五十八分	六時二十 六分間	一月	六時三十 八分	七時三十 八分	第二時 三十分間	五時二十 二分	六時五十 七分間	七時三十 七分間	六時五十 七分間	二月	六時三十 八分	七時三十 八分
二月	六時三十 八分	七時三十 八分	第十時ヨ リ十五分 時間	十二時ヨ リ一時三 十分間	三時五十 分	一時三十 二分間	五時二十 二分	六時五十 七分間	二月	六時三十 八分	七時三十 八分	第二時 三十分間	五時二十 二分	六時五十 七分間	七時三十 七分間	六時五十 七分間	三月	六時三十 八分	七時三十 八分
三月	六時三十 八分	七時三十 八分	第十時ヨ リ十五分 時間	十二時ヨ リ一時三 十分間	三時五十 分	一時三十 二分間	五時二十 二分	六時五十 七分間	三月	六時三十 八分	七時三十 八分	第二時 三十分間	五時二十 二分	六時五十 七分間	七時三十 七分間	六時五十 七分間	四月	五時三十 二分	六時三十 二分
四月	五時三十 二分	六時三十 二分	第九時ヨ リ十分時 間	十一時ヨ リ十二時 十分間	四時三十 分	一時五十 四分間	六時二十 二分	七時三十 二分間	四月	五時三十 二分	六時三十 二分	第一時五 十分間	六時二十 二分	七時三十 二分間	八時三十 二分間	五時三十 二分間	五月	五時三十 二分	六時三十 二分
五月	五時三十 二分	六時三十 二分	第九時ヨ リ十分時 間	十一時ヨ リ十二時 十分間	四時三十 分	一時五十 四分間	六時二十 二分	七時三十 二分間	五月	五時三十 二分	六時三十 二分	第一時五 十分間	六時二十 二分	七時三十 二分間	八時三十 二分間	五時三十 二分間	六月	四時四十 九分	五時四十 九分
六月	四時四十 九分	五時四十 九分	同上	同上	同上	同上	同上	同上	六月	四時四十 九分	五時四十 九分	第一時五 十分間	六時二十 二分	七時三十 二分間	八時三十 二分間	四時四十 九分間	同上	同上	

囚徒服役時限表

監獄署在監人書信紙明治年月日

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ  
 一書信ノ文句規則ニ背キタルヲアル時ハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ  
 罰ニ處スルヲアルヘシ

○第六類○治罪法○陸軍監獄署官員服務概則

下七百七十五

下七百七十四



	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月
節 年々 早晩	約 不日 出 節 不 然 ト	以 テ 起 床 ト	以 テ 起 床 ト	以 テ 起 床 ト	以 テ 起 床 ト	以 テ 起 床 ト
	分七時〇八	分六時五十五	分六時二十	分八時四十分	分五時十六	分四時五十五
	分八時〇八	分七時五十五	分七時二十	分六時四十分	分六時十六	分五時五十五
	間第十時	同上	間第十時五分	間第九時五分	同上	同上
	間十二時五分	同上	同上	間十二時	同上	同上
	同上	分三時二十	分三時四十	分四時二十	分四時五十分	分五時十分
サ シ ム	二 分 間 一 時 三 十	八 分 間 一 時 四 十	九 分 間 一 時 四 十	一 分 間 一 時 五 十	四 分 間 一 時 五 十	九 分 間 一 時 五 十
	分四時五十分	分五時〇八	分五時三十	分六時十一	分六時四十	分七時〇九
	分六時十二	分六時十三	分七時〇三	分八時十二	分八時〇四	分八時四十

下七百七十六

ア リ 日 々	分 四 時 五 十	分 五 時 五 十	分 六 時 五 十	分 七 時 〇 八	分 八 時 〇 八	分 九 時 〇 八	分 十 時 〇 八	分 十 一 時 〇 八	分 十 二 時 〇 八	分 十 三 時 〇 八	分 十 四 時 〇 八
刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八
別 國 〇 東	別 國 〇 東	別 國 〇 東	別 國 〇 東	別 國 〇 東	別 國 〇 東	別 國 〇 東	別 國 〇 東	別 國 〇 東	別 國 〇 東	別 國 〇 東	別 國 〇 東
分 秒 〇 八	分 秒 〇 八	分 秒 〇 八	分 秒 〇 八	分 秒 〇 八	分 秒 〇 八	分 秒 〇 八	分 秒 〇 八	分 秒 〇 八	分 秒 〇 八	分 秒 〇 八	分 秒 〇 八
保 能 ハ	保 能 ハ	保 能 ハ	保 能 ハ	保 能 ハ	保 能 ハ	保 能 ハ	保 能 ハ	保 能 ハ	保 能 ハ	保 能 ハ	保 能 ハ
毎 日 〇 八	毎 日 〇 八	毎 日 〇 八	毎 日 〇 八	毎 日 〇 八	毎 日 〇 八	毎 日 〇 八	毎 日 〇 八	毎 日 〇 八	毎 日 〇 八	毎 日 〇 八	毎 日 〇 八
之 一 〇 八	之 一 〇 八	之 一 〇 八	之 一 〇 八	之 一 〇 八	之 一 〇 八	之 一 〇 八	之 一 〇 八	之 一 〇 八	之 一 〇 八	之 一 〇 八	之 一 〇 八
刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八	刻 分 〇 八
表 示 分 此	表 示 分 此	表 示 分 此	表 示 分 此	表 示 分 此	表 示 分 此	表 示 分 此	表 示 分 此	表 示 分 此	表 示 分 此	表 示 分 此	表 示 分 此
酌 宜 ト	酌 宜 ト	酌 宜 ト	酌 宜 ト	酌 宜 ト	酌 宜 ト	酌 宜 ト	酌 宜 ト	酌 宜 ト	酌 宜 ト	酌 宜 ト	酌 宜 ト
囚 徒 ト	囚 徒 ト	囚 徒 ト	囚 徒 ト	囚 徒 ト	囚 徒 ト	囚 徒 ト	囚 徒 ト	囚 徒 ト	囚 徒 ト	囚 徒 ト	囚 徒 ト
シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト
シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト
シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト
シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト
シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト
シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト
シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト	シ テ ト

第六類 ○治罪法 ○陸軍監獄署官員服務概則 下七百七十七



明治十七年三月  
第八号布告

○第五款 海軍治罪法

海軍治罪法目錄

第一章 總則	自第一條 至第六條
第二章 軍法會議ノ構成	自第七條 至第十二條
第三章 軍法會議ノ權限	自第十三條 至第廿三條
第四章 海軍檢察	自第廿四條 至第三十五條
第五章 審問	自第三十六條 至第五十六條
第六章 判決	自第五十七條 至第七十八條
第七章 軍中處分	自第七十九條 至第八十四條

海軍治罪法

第一章 總則

第一條 海軍軍人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス軍法會議ハ刑事附帶ノ民事ヲ受理セズ

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サズ但其宣告ヲ爲ス時ハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ掲クル者ヲ謂フ

第四條 司令官ト稱スルハ艦隊司令官長官艦隊司令官分遣艦隊司令官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十四條第十八條第百條第百一條ノ規則ハ此治罪法ニ於テモ之ヲ適用ス

第六條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ軍法會議ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ルヲ得ス

第二章 軍法會議ノ構成

第七條 軍法會議ヲ別テ四ト爲ス

一東京軍法會議。二鎮守府軍法會議。三艦隊軍法會議。四合圍軍法會議。東京軍法會議及ヒ鎮守府軍法會議ハ常設ト爲シ艦隊軍法會議ハ臨時艦内ニ之ヲ設ケ合圍軍法會議ハ合圍間之ヲ設ク

第八條 軍法會議ハ判士長一名判士四名主理録事各一名若シハ數名ヲ以之ヲ開ク

判士長ハ佐官ヲ以テシ判士ハ尉官主理ハ奏任官録事ハ七等官以下ヲ以テス若シ被告人陸海軍中尉以上及ヒ同等以上ノ軍人軍屬ナル時ハ左ノ表ニ照シテ判士長判士ヲ更フ

○第六類○治罪法○海軍治罪法



一被告人陸海軍少將以上及ヒ同等以上ノ軍人軍屬ナル時ハ勅任官ノ主理ヲシテ其職ヲ掌ラシム

判士長	判士	被告人
佐官 一名	大尉二名若クハ中尉二名若クハ	陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐若クハ中佐 一名	少佐二名若クハ大尉二名若クハ	陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐 一名	中佐二名若クハ少佐二名若クハ	陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
少將 一名	大佐二名若クハ中佐二名若クハ	陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	少將二名若クハ大佐二名若クハ	陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	中將二名若クハ少將二名若クハ	陸海軍少將及ヒ同等ノ軍人軍屬
大將 一名	中將二名若クハ少將二名若クハ	陸海軍中將及ヒ同等ノ軍人軍屬
大將 一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍人軍屬

第九條 軍人ニ非サル勅任官ヲ審判スル時ノ軍法會議ハ將官ヲ審判スルノ例ニ從フ

第十條 外國又ハ戰地ヘ數隻ノ艦船ヲ差遣スル時ハ海軍卿ヨリ其先任艦長ニ艦隊軍法會議ヲ開クノ權ヲ付與スルコトアル可シ此場合ニ於テハ此權限司令官ニ同シ

第十一條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ海軍卿ノ奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス勅任官ニ主理ヲ命スル時モ亦同シ

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲シ奏任官ヲ以テ主理若クハ錄事ト爲ス時東京並鎮守府ニ於テハ海軍卿之ヲ命シ艦内ニ於テハ司令官之ヲ命ス可シ但檢察官若クハ審問委員タリシ者ハ其事件ノ判士ニ加フルコトナシ

第十二條 艦隊軍法會議ニ於テ判士長判士ニ充ツ可キ將校缺乏ナル時ハ司令官ノ上申ニ依リ海軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシム但外國ニ在テハ司令官他ノ官吏ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第十三條 東京軍法會議ハ左ニ記列スル者ヲ審判ス

一鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ權限ニ屬セサル軍人其他海軍ノ用ニ供スル船舶ノ乘員重罪輕罪ヲ犯シタル者。二鎮守府軍法會議若

○第六類○治罪法○海軍治罪法



シハ艦隊軍法會議ノ權限ニ屬セス海軍刑法第三條第四條ニ依リ處斷ス可キ者。三鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ權限ニ屬セサル海軍監獄ニ在ル未決既決ノ囚人ノ重罪輕罪ヲ犯シタル者

第十四條 鎮守府軍法會議ハ左ニ記列スル者ヲ審判ス

一鎮守府長官ノ麾下ニ屬スル軍人其他鎮守府ノ用ニ供スル船舶ノ乘員重罪輕罪ヲ犯シタル者。二鎮守府ノ所管ニ係リ海軍刑法第三條第四條ニ依リ處斷ス可キ者。三鎮守府所管ノ監獄ニ在ル未決既決ノ囚人重罪輕罪ヲ犯シタル者

第十五條 艦隊軍法會議ハ左ニ記列スル者ヲ審判ス

一司令官ノ麾下ニ屬スル軍人其他從軍諸員及ヒ艦隊ノ用ニ供スル船舶ノ乘員重罪輕罪ヲ犯シタル者。二司令官ノ所管ニ係リ海軍刑法第三條第四條ニ依リ處斷ス可キ者。三艦船内ニ在ル未決既決ノ囚人重罪輕罪ヲ犯シタル者

第十六條 艦隊若クハ數隻ノ艦船外國へ出發ノ後其軍法會議ノ權限ニ屬スル者内國ニ在テ犯罪發覺シタル時ハ鎮守府軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス可シ

第十七條 海軍卿ハ時宜ニ依リ甲軍法會議ノ權限ニ屬スル事件ヲ乙軍法

會議ニ移シ其審判ヲ爲サシムルヲ得

第十八條 軍人任官若クハ就役前罪ヲ犯シ在官現役中發覺シタル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺シタル者ハ司法裁判ニ付ス

歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ舊罪發覺シタル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其召集中ノ犯罪解散ノ後發覺シタル者ハ司法裁判ニ付ス

第十九條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各其管轄ヲ異ニスル時ハ先キニ審問ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス但陸軍々人軍屬ト共犯ニ係ル時ハ第十九條ノ例ニ從フ

第二十一條 海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ發シタル者モ亦同シ

第二十二條 重罪輕罪ト俱ニ發シタル違警罪モ亦軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十三條 俘虜降人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

○第六類○治罪法○海軍治罪法



第四章 海軍檢察

第二十四條 海軍檢察ハ海軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ證據ヲ拾收ス

第二十五條 左ニ記列スルモノハ所管長官若クハ所屬長ノ命令ヲ受ケテ海軍檢察ノ職務ヲ行フ

東京軍法會議及ヒ鎮守府軍法會議ノ主理。鎮守府及艦船營ノ士官學校監事

第二十六條 海軍檢察ノ職務ヲ行フ者現行犯アルコトヲ知リタル時ハ時宜

ニ因リ犯所ニ臨檢シ犯罪人ヲ逮捕シ訊問ヲ爲シ其調書ヲ作ルコトヲ得

第二十七條 各廳長及ヒ艦船營長ハ各其管スル所ノ事ニ就キ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ自ラ海軍檢察ノ處分ヲ爲シ又ハ第二十五條ニ記載シタル諸官ニ命シ若クハ委シテ其處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十八條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ被告人ノ所屬長東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

第二十九條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知タル時ハ第二十八條ニ記載シタル官吏ニ告發スルコトヲ得

第三十條 軍人其職務ヲ行フニ因リ重罪輕罪ヲ犯タル者アルコトヲ知タ

ル時ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理又ハ被告人ノ所屬長ニ告發ス可シ

第三十一條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理司法警察官憲兵若クハ巡查ニ交付ス可シ

第三十二條 司法警察官憲兵及ヒ巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ之ヲ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理ニ引致ス可シ

第三十三條 司法警察官軍人ニ係ル告訴告發ヲ受ケタル時ハ速ニ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理ニ交付ス可シ

第三十四條 告訴人告發人ハ願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セシムルコトヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 第三十五條ニ記載シタル諸官海軍檢察ノ處分ヲ爲シタル時ハ調書ヲ作り證據文書ヲ添テ各其所管長官若クハ所屬長又ハ委託ヲ受ケタル各廳長ニ具申ス可シ

第五章 審問

○第六類○治罪法○海軍治罪法



第三十六條 鎮守府長官司官被告人事件ノ具申ヲ受タル時ハ速ニ左ノ處分ヲ爲ス可シ

被告人上長官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申ス可シ

被告人士官以下及ヒ同等以下ノ軍人若クハ其他ノ諸人ナル時ハ其事件ノ難易ニ從ヒ鎮守府長官ハ判士ニ司令官ハ麾下ノ將校ニ審問委員ヲ命ジテ審問ヲ爲サシメ若クハ直ニ判決ニ付ス可シ

第三十七條 各廳長被告事件ノ具申ヲ受ケ若クハ自ラ檢察ノ處分ヲ爲シタル時ハ速ニ其事件ヲ東京軍法會議ノ主理ニ移シ主理ハ之ヲ判士長ニ交付ス可シ

第三十八條 東京軍法會議ノ判士長主理ヨリ被告事件ノ交付ヲ受ケタル時ハ速ニ左ノ處分ヲ爲ス可シ

被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申ス可シ  
被告人下士以下及ヒ同等以下ノ軍人若クハ其他ノ諸人ナル時ハ其事件ノ難易ニ從ヒ判士ニ審問委員ヲ命ジテ審問ヲ爲サシメ若クハ直ニ判決ニ付ス可シ

第三十九條 海軍卿被告事件ノ具申ヲ受タル時ハ其事件ノ難易ニ從ヒ審問若クハ判決ニ付スルノ命令ヲ下ス可シ其命令ヲ受タル鎮守府長官司令官若クハ判士長ハ審問委員ヲ命ジテ審問ヲ爲サシメ又ハ直ニ判決ニ付ス可シ

第四十條 審問委員審問ヲ爲ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス其被告人出廷シタル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

第四十一條 審問委員ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルヲ得

第四十二條 審問委員ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルヲ得

第四十三條 審問委員ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ被告人罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走スルノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ恐アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第四十四條 審問委員ハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ委シテ之ヲ執行スルコトヲ得

第四十五條 審問委員ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ証明シタル時ニ其所在

○第六類○治罪法○海軍治罪法



ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其他ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十六條 審問委員ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ鎮守府長官司令官若シハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申ス可シ

鎮守府長官司令官若シハ東京軍法會議ノ判士長ハ各控訴裁判所ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ

司令官外國ニ在テハ領事若シハ公使ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ  
第四十七條 審問委員ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ収禁狀ヲ發スルコトヲ得

収禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非ラス又其収禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ収禁狀ヲ解シ可シ

第四十八條 審問委員ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得其處分ヲ爲ス時ハ錄事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ

其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十九條 審問委員ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披

スルコトヲ得

其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ第四十八條第二項ノ例ニ依ル

第五十條 審問委員ハ証人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

証人皇族若シハ勅任官ナル時ハ其所在ニ就テ陳述ヲ聽クヘシ

証人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

証人遠隔ノ地ニ住スル時ハ第四十八條第二項ノ例ニ依ル

第五十一條 審問委員ハ被告人及ヒ証人ノ訊問ヲ爲ス時ハ錄事之ニ會同シ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人若シハ証人ニ讀示セシメ其陳述シタル所ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ

被告人及ヒ証人ハ其陳述ヲ變更増減セシコトヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 審問委員ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スル時ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ

○第六類○治罪法○海軍治罪法



第五十三條 審問委員ハ證人鑑定人通事正當ノ事故ヲ證明セスシテ其呼出ニ應セサル時ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ但其證人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

證人陳述ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百八十條ニ依リ又鑑定人鑑定ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

第五十四條 證人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑法第二十七條ニ從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フル時モ亦審問委員之ヲ命ス

第五十五條 審問委員ハ審問ニ於テ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ直ニ本件ト共ニ審問ス可シ

共犯ヲ覺舉シタル時ハ之ヲ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申ス可シ

第五十六條 審問委員ハ審問終リタル時ハ其報告書ヲ作り意見書ヲ添へ訴訟文書ト共ニ之ヲ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申ス可シ

第六章 判決

第五十七條 鎮守府長官若クハ司令官審問事件ノ具申ヲ受ケ被告人上長官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申シ其他ノ者ナル

時ハ直ニ判決ニ付ス可シ

東京軍法會議ノ判士長審問事件ノ具申ヲ受ケ被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申シ其他ノ者ナル時ハ直ニ判決ス可シ

第五十八條 海軍卿審問事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書ヲ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ下ス可シ

第五十九條 鎮守府長官若クハ司令官軍法會議ヲ開ク時ハ其命令書ヲ判士長ニ下シ其謄本ヲ訴訟文書ト共ニ主理ニ下付シ主理ハ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ

東京軍法會議ノ判士長軍法會議ヲ開ク時ハ之ヲ主理ニ通知シ主理ハ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ

第六十條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士主理錄事各其席ニ就キタル後判士長被告人ヲ出廷セシム

判士長ハ先ツ被告人ノ官位勳等職名氏名族籍年齡住所ヲ問ヒ訊問ヲ爲スノ旨ヲ告示シ錄事ヲシテ審問委員ノ報告書ヲ朗讀セシム

其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ其訊問ヲ爲サシム

○第六類○治罪法○海軍治罪法



第六十二條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令狀ヲ發スルコトヲ得  
判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ其處置ヲ爲スコトヲ得法廷ニ於テ罪ヲ  
犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サ  
シム可シ

法廷ニ於テ証人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第五章ノ例ニ依ル

第六十二條 判士長ハ禁錮以上刑ニ該ル可キ被告人出廷ノ命ニ應セサル  
時ハ之ヲ引致ス可シ但疾病其他正當ノ事故ニ因リ出廷スル能ハサルコ  
トヲ證明シタル時ハ其審判ヲ延期スルコトヲ得

第六十三條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ審判ノ日時ニ出廷  
セサル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

第六十四條 被告人逃走シテ審判ノ日時ニ出廷セス又ハ召喚狀ヲ送達ス  
ルコトヲ得サル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

第六十五條 數人共犯ノ審判ヲ爲ス時被告人中闕席シタル者アリト雖モ  
出廷シタル者ニ對シ審判ヲ爲ス可シ

第六十六條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後證人ヲ訊問シ若クハ判士ニ  
命シテ訊問セシム可シ

第六十七條 判士長ハ證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ

該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ爲シ若クハ判士ニ  
命シテ訊問ヲ爲サシメ鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ判士長ハ  
各其所管長官ニ具申シ東京軍法會議ノ判士長ハ其証人准士官以上及ヒ  
同等以上ノ軍人ナル時ハ海軍卿ニ具申ス可シ

其處分ヲ爲シタル時ハ判士長ハ本體ノ審判ヲ延期スルコトヲ得

第六十八條 判士長ハ法廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアル時ハ其  
處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ

法廷ニ於テ共犯ヲ覺舉シタル時ハ第六十七條ノ例ニ從ヒ具申ス可シ  
若シ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ爲ス可シ

第六十九條 判士長ハ被告人及ヒ證人ノ訊問終リタル時ハ更ニ被告人ニ  
對シ他ニ陳述ス可キ事件ナキヤ否ヲ問ヒ審問終リタルノ旨ヲ告ケ被告  
人ヲ退廷セシム可シ

第七十條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ條件ニ照シ之ヲ作り判  
士長判士録事署名捺印ス可シ

一有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ記ス  
。二無罪ノ判決書ニハ被告事件罪トナラサルコト及ヒ其理由ヲ記シ犯  
罪ノ證據備ハラサル時ハ其旨ヲ記ス。三免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿



免除ト爲リタルコト太敷アリタルコト法律ニ於テ其罪ヲ全免スルヲ及ヒ其理由ヲ記ス。四被告人ノ官位勳等職名氏族籍年齢住所及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス。

第七十一條 鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ判士長ハ判決書ニ訴訟文書ヲ添へ各其所管長官ニ具申ス可シ

第七十二條 鎮守府長官司令官ハ左ニ記載スル事件ハ海軍卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス

死刑。上長官及ヒ同等以上軍人ノ重罪輕罪。士官准士官及ヒ同等軍人ノ重罪

第七十三條 東京軍法會議ノ判士長ハ判決書ニ訴訟文書ヲ添へ海軍卿ニ上申シテ命ヲ請フ可シ

第七十四條 鎮守府長官司令官ハ其判決ヲ不適當ト思量スル時ハ其專決ノ權アル事件ハ直ニ之ヲ再議セシムルコトヲ得

其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ海軍卿ニ上申ス可シ

第七十五條 海軍卿ハ其判決ヲ不適當ト思量スル時ハ直ニ其具申スル所ノ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ下シテ之ヲ再議セシムルコトヲ得

海軍卿ハ死刑並ニ上長官以上及ヒ同等以上軍人ノ重罪輕罪並士官及ヒ

同等奏任官軍人ノ重罪ニ係ルモノハ上奏シテ命ヲ請フ可シ

第七十六條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士主理録專法廷ニ臨

ニ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

第七十七條 外國若クハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦長ハ輕罪ノ刑ノ宣告

ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ

算入セス

第七十八條 行刑ニ關スル方法ハ海軍卿別ニ之ヲ定ム

第七章 軍中處分

第七十九條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官麾下ノ將校若クハ其

地ニ在ル將校中ヨリ撰ニ專任判士ヲ置キ被告人ノ官等ニ拘ハラヌ之ヲ

審判セシム但將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ニ充ツルコト

ヲ得

第八十條 合圍ノ地ニ於テハ第十三條第十四條第十五條ニ記載シタル者

ハ合圍軍法會議ノ權限ニ屬ス

第八十一條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官被告人ノ官等ニ拘ハ

ラズ直ニ審判及ヒ其宣告執行ノ命令ヲ下スコトヲ得

○第六類○治罪法○海軍治罪法



第八十二條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官又ハ艦長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免スルコトヲ得

第八十三條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官時宜ニ因リ此治罪法ノ條目ヲ省略處分セシムルコトヲ得

第八十四條 合圍軍法會議ヲ廢スルニ當リ既ニ審判ニ着手シタル者ハ海軍卿ノ指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

○第六款 海軍軍法會議并監獄署條例

明治十七年四月海軍省丙第六十三號及丙第六十四號達

▲明治十七年四月海軍省丙第六十二號達 海軍東京軍法會議并海軍東京監獄署ヲ設置シ其條例左ノ通相定ム此旨相達候事

海軍東京軍法會議條例

第一條 海軍東京軍法會議ハ海軍治罪法ニ從ヒ其權限ニ屬スル重罪輕罪ヲ審判スル所トス

第二條 軍法會議ニハ判士長判士主理錄事ヲ置ク

第三條 軍法會議ノ下ニ庶務課ヲ置キ判士長ノ處分ニ係ル文書ノ住復受付官印ノ監守公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製其他裁判上ノ事項ニ屬セサル庶務ヲ掌理ス

第四條 判士長一名佐官ヲ以テ之ニ補シ部下諸員ヲ統督シ主官百般ノ事務ヲ總理ス

第五條 判士長ハ主官ノ事務ニ於テハ卿ニ對シ其當否ヲ辨明スルヲ得而シテ亦擔保ノ責ニ任ス

第六條 判士長ハ海軍治罪法ニ係ル事務ニ付テハ直ニ之ヲ海軍監獄署長ニ達スルヲ得

第七條 判士長ハ部下諸員ノ進退黜陟ヲ卿ニ具狀スルヲ得

第八條 判士長ハ左ニ記列スル事項ハ卿ノ認可ヲ經ルニ非サレハ施行スルヲ得ス

- 一 外國人ニ係ル訴訟ヲ取扱フ事
- 二 定例外ノ經費金ヲ要スル事
- 三 内外國人ト諸條約書ヲ交換スル事
- 四 一工事ニ付百圓以上ノ金額ヲ要スル事

○第六類○治罪法○海軍軍法會議並監獄署條例



五 損廢ノ物品器具等ヲ賣却スル事

第九條 判士長ハ左ニ記列スル事項ハ之ヲ專行スルヲ得

一 處務内規ヲ創設改良スル事

二 給料一月金十圓以下若クハ日給金五十錢以下ノ傭員ヲ進退黜陟スル事

三 所轄諸員ニ分課ヲ命シ及ヒ之ヲ二十里以内ノ地ニ派出セシムル事

四 課務ヲ分テ掛ヲ置ク事

五 主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スル事

第十條 判士六名尉官ヲ以テ之ニ補シ公判ノ事ヲ掌リ又判士長ノ命ヲ受ケ審問委員ト爲リ豫審ノ事ヲ掌ル

第十一條 審問委員ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ行フニ付テハ各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルヲ得

第十二條 録事四名七等官以下ヲ以テ之ニ充テ判士長判士ノ命ヲ受ケ豫審公判ノ調書其他審判ニ關スル文書ヲ作り及ヒ其事務ヲ理シ並ニ裁判ニ關スル書類ヲ保存スルヲ掌ル

第十三條 主理二名奏任官ヲ以テ之ニ充テ告訴告發ヲ受ケ犯罪ノ搜查起

訴或ハ現行犯罪ニ係ル處分ヲ爲シ及ヒ裁判宣告ノ執行ノ事ヲ掌ル

第十四條 主理ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ行フニ付テハ各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルヲ得

第十五條 主理ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ事件表ヲ作り判士長ヲ經由シテ之ヲ卿ニ差出スヘシ

第十六條 主理ノ下ニ屬僚三名ヲ置キ判任官ヲ以テ之ニ充テ主理ノ命ヲ受ケ其事務ヲ掌理ス

第十七條 庶務課ニ課僚二名ヲ置キ其主務ニ從事セシメ又警査四名ヲ置キ警吏或ハ判任以下ノ官吏ヲ以テ之ニ充テ令狀ノ執行被告人ノ看守護送及ヒ公廷ノ警固其他取締等ノ職務ニ從事セシム

海軍東京軍法會議定員表

判士長	佐官	一	人
判士	尉官	六	人
録事	七等官以下	四	人
課僚	八等官以下	二	人
主理	奏任官	二	人
屬僚	八等官以下	三	人

○第六類○治罪法○海軍軍法會議並監獄署條例



▲明治十七年七月海軍省丙第百十六号達  
本年(四月)丙第六十三号達海軍東京軍法會議條例中左ノ通加除改正ス此  
旨相達候事

第三條第六條第十七條ヲ削リ第四條ヲ第三條ニ第五條ヲ第四條ニ第七條  
ヲ第五條ニ第八條ヲ第六條ニ第九條ヲ第七條ニ改メ而シテ左ノ一條ヲ加  
ヘ以下各條順次繰上リ

第八條 判士長ノ下ニ屬僚二名ヲ置キ判士長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受  
付官印ノ監守公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ其他ノ庶務ヲ掌理  
セシメ又警査四名ヲ置キ警吏或ハ警吏補ヲ以テ之ニ充テ判士長判士或  
ハ主理ノ命ヲ受ケ令狀ノ執行被告人ノ看守護送公廷ノ警固其他取締等  
ノ職務ニ從事セシム

第七條第三項中(分課)ヲ(掛)ニ改メ第四項ヲ削除シ次項ノ(五)ヲ(四)ニ改正  
第十二條中(宣告)ノ三字削除

○海軍東京監獄署條例

第一條 海軍東京監獄署ハ海軍東京監獄ヲ管轄シ其事務ヲ掌理スル所トス

第二條 署内ニ庶務課ヲ置キ署長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監  
守署内公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ他ノ主管ニ屬セサル庶務

ヲ掌理ス  
第三條 署長一名少佐若クハ大尉ヲ以テ之ニ補シ所轄諸員ヲ統督シ主管  
ノ事務ヲ總理ス

第四條 署長ハ主管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シ其當否ヲ辨明スルヲ得而  
シテ亦擔保ノ責ニ任ス

第五條 署長ハ海軍治罪法ニ係ル事務ニ付判士長審問委員主理ヨリ照會  
アルトハ速ニ其處分ヲ爲ス可シ

第六條 署長ハ所轄諸員ノ進退黜陟ヲ卿ニ具狀スルヲ得

第七條 署長ハ監房ニ入ル、物品ハ一々之ヲ檢査シ其危險ノ虞アル者ハ  
之ヲ禁ス可シ

第八條 署長ハ不時ニ監房ノ内外ヲ巡視シ或ハ物件ヲ査閱シ又警査長及ヒ  
警査ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録セシメ賞罰ヲ行フノ考據ト爲ス可シ

第九條 署長ハ所轄諸員ニ分課ヲ命シ及ヒ之ヲ二十里以内ノ地ニ派出セ  
シムルヲ得

第十條 署長ハ課務ヲ分テ掛ヲ置クヲ得

○第六類○治罪法○海軍軍法會議並監獄署條例 下八百一



第十一條 署長ハ主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルヲ得

第十二條 警查長三名尉官ヲ以テ之ニ補シ監獄ノ巡視警戒出入物件ノ調査出入監人ノ點檢在監人ノ看守護送驅役等ヲ監督シ及ヒ在監人ノ名籍ヲ調査スル事ヲ掌ル署長事故アルハ先任ノ警查長其代理ヲ爲ス

第十三條 警查六名警吏ヲ以テ之ニ充テ警查長ノ命ヲ受ケ監獄ノ巡視警戒出入物件ノ調査出入監人ノ點檢在監人ノ看守護送驅役等ノ事ヲ掌ル  
第十四條 署内ニ軍醫一名ヲ置キ醫務衛生ノ事ヲ掌ラシム又其下ニ看護手看病夫若干名ヲ附屬ス

第十五條 軍醫ハ死刑ノ執行アルハ之ニ立會フ可シ

第十六條 庶務課ニ課僚二名ヲ置キ署長ノ命ヲ受ケ其主務ニ從事セシム

海軍東京監獄署定員表

署	長	少佐若シハ大尉	一	人
警查	長	尉官	三	人
軍醫			一	人
課僚	八等官以下	二	二	人
警查	警吏	同補	六	人

▲明治十七年四月海軍省内第六十四号達

東海鎮守府刑事課監囚課ヲ廢シ同府ニ鎮守府軍法會議并ニ鎮守府監獄署ヲ設置シ其條例左ノ通相定ム此旨相達候事

○鎮守府軍法會議條例

第一條 鎮守府軍法會議ハ鎮守府長官ノ命ヲ受ケ其權限ニ屬スル重罪輕罪ヲ審判スル所トス

第二條 軍法會議ニハ判士長判士主理錄事ヲ置ク

第三條 軍法會議ノ丁ニ庶務課ヲ置キ判士長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守公文書類ノ編脩保存諸報告ノ調製其他裁判上ノ事項ニ屬セサル庶務ヲ掌理ス

第四條 判士長一名佐官ヲ以テ之ニ補シ部下諸員ヲ統督シ主管百般ノ事務ヲ總理ス

第五條 判士長ハ主管ノ事務ニ於テハ鎮守府長官ニ對シ其當否ヲ辨明スルヲ得而シ亦擔保ノ責ニ任ス

第六條 判士長ハ海軍治罪法ニ係ル事務ニ付テハ直ニ之ヲ海軍監獄署長ニ達スルヲ得

第七條 判士長ハ部下諸員ノ進退黜陟ヲ鎮守府長官ニ具狀スルヲ得

○第六類○治罪法○海軍軍法會議並監獄署條例



第八條 判士長ハ所轄諸員ニ分課ヲ命シ及ヒ之ヲ二十里以内ノ地ニ派出セシムルヲ得

第九條 判士長ハ課務ヲ分テ掛ヲ置クヲ得

第十條 判士長ハ主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルヲ得

第十一條 判士若干名尉官ヲ以テ之ニ補シ公判ノ事ヲ掌リ又鎮守府長官ノ命ヲ受ケ審問委員ト爲リ豫審ノ事ヲ掌ル

第十二條 審問委員ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ行フニ付テハ各廳ニ對シ豫其名ヲ署シ照會往復スルヲ得

第十三條 錄事若干名七等官以下ヲ以テ之ニ充テ判士長判士ノ命ヲ受ケ豫審公判ノ調書其他審判ニ關スル文書ヲ作り及ヒ其事務ヲ理シ并ニ裁判ニ關スル書類ヲ保存スルヲ掌ル

第十四條 主理若干名委任官ヲ以テ之ニ充テ告訴發テ受ケ犯罪ノ搜查起訴或ハ現行犯罪ニ係ル處分ヲ爲シ裁判宣告ノ執行ノ事ヲ掌ル

第十五條 主理ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ行フニ付テハ各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルヲ得

第十六條 主理ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ事件表ヲ作り判士長ヲ經由シ

テ之ヲ鎮守府長官ニ差出ス可シ

第十七條 主理ノ下ニ屬僚若干名ヲ置キ判任官ヲ以テ之ニ充テ主理ノ命ヲ受ケ其事務ヲ掌理ス

第十八條 庶務課ニ課僚若干名ヲ置キ其主務ニ從事セシメ又警査若干名ヲ置キ警吏或ハ判任以下ノ官吏ヲ以テ之ニ充テ令狀ノ執行被告人ノ看守護送及ヒ公庭ノ警固其他取締等ノ職務ニ從事セシム

▲明治十七年七月海軍省丙第百十七号達

本年(四月)丙第六十四號達鎮守府軍法會議條例中左ノ通加除改正ス此旨相達候事

第三條第六條第九條第拾八條ヲ削リ第四條ヲ第三條ニ第五條ヲ第四條ニ第七條ヲ第五條ニ第八條ヲ第六條ニ第十條ヲ第七條ニ改メ而シテ左ノ一條ヲ加ヘ以下各條順次繰上ク

第八條 判士長ノ下ニ屬僚若干名ヲ置キ判士長ノ處分ニ係ル文書ヲ往復受付官印ノ鎮守公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ其他ノ庶務ヲ掌理セシメ又警査若干名ヲ置キ警吏或ハ警吏補ヲ以テ之ニ充テ判士長判士或ハ主理ノ命ヲ受ケ令狀ノ執行被告人ノ看守護送公庭ノ警固其他取締等ノ職務ニ從事セシム

○第六類○治罪法○海軍軍法會議並監獄著條例



第六條中(分課)ヲ(掛)ニ改正

第拾貳條中(宣告)ノ三字ヲ削除

○鎮守府監獄署條例

第一條 鎮守府監獄署ハ鎮守府所屬ノ監獄ヲ管轄シ其事務ヲ掌理スル所トス

第二條 署内ニ庶務課ヲ置キ署長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守署内公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ他ノ主管ニ屬セサル庶務ヲ掌理ス

第三條 署長一名少佐若クハ大尉ヲ以テ之ニ補シ所轄諸員ヲ統督シ主管ノ事務ヲ總理ス

第四條 署長ハ主管ノ事務ニ於テハ鎮守府長官ニ對シ其當否ヲ辨明スルヲ得而シテ亦擔保ノ責ニ任ス

第五條 署長ハ海軍治罪法ニ係ル事務ニ付判士長審問委員主理ヨリ照會アルハ速ニ其處分ヲ爲ス可シ

第六條 署長ハ所轄諸員ノ進退黜陟ヲ鎮守府長官ニ具狀スルヲ得

第七條 署長ハ監房ニ入ル、物品ハ一々之ヲ檢査シ其危險ノ虞アル者ハ之ヲ禁ス可シ

第八條 署長ハ不時ニ監房ノ内外ヲ巡視シ或ハ物件ヲ査閲シ又警查長及

ヒ警查ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録セシメ賞罰ヲ行フノ者據ト爲ス可

シ

第九條 署長ハ所轄諸員ニ分課ヲ命シ及ヒ之ヲ二十里以内ノ地ニ派出セシムルヲ得

第十條 署長ハ課務ヲ分テ掛ヲ置クヲ得

第十一條 署長ハ主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルヲ得

第十二條 警查長若干名尉官ヲ以テ之ニ補シ監獄ノ巡視警戒出入物件ノ調査出入監人ノ點檢在監人ノ看守護送驅役等ヲ監督シ及ヒ在監人ノ名籍ヲ調査スル事ヲ掌リ署長事故アルハ先任ノ警查長其代理ヲ爲ス

第十三條 警查若干名警吏ヲ以テ之ニ充テ警查長ノ命ヲ受ケ監獄ノ巡視警戒出入物件ノ調査出入監人ノ點檢在監人ノ看守護送驅役等ノ事ヲ掌ル

第十四條 署内ニ軍醫若干名ヲ置キ醫務衛生ノ事ヲ掌ラシム又其下ニ看護手看病夫若干名ヲ附屬ス

第十五條 軍醫ハ死刑ノ執行アルハ之ニ立會フ可シ

○第六類○治罪法○海軍軍法會議並監獄署條例



第十六條 庶務課ニ課僚若干名ヲ置キ署長ノ命ヲ受ケ其主務ニ従事セシム

○第七款 罪犯取扱及行刑ニ關スル手續方法 明治十七年四月海軍省丙第六十五號

罪犯取扱及ヒ行刑ニ關スル手續方法左ノ通相定候條此旨相達候事  
判士長判士審問委員若クハ海軍治罪法第二十五條ニ記載シタル諸官其職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ艦船營長若クハ憲兵隊長ニ照會シテ兵員ヲ要求使用スルコトヲ得

證人鑑定人通事旅費日當止宿料ヲ請求スル時ハ普通刑法附則第四十八條ニ從ヒ支給ス可シ

罰金料ノ宣告ヲ爲ス時ハ其宣告ト共ニ限内納完セサル時ハ輕禁錮拘留ニ換フ可キコトヲ告示シ且ツ之ヲ其宣告書ニ記載シ置ク可シ

軍法會議ハ私訴ヲ受理セスト雖モ贓物軍人軍屬ノ手ニ現存スルキハ追徵シテ其主ニ還付ス可シ

死刑ノ執行ヲ爲ス時ハ主理錄事司獄官吏四人ヲ艦船ニ收禁シタル時ハ本艦ノ尉官醫官刑場ニ立會ヒ司獄官吏尉官若クハヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キコトヲ告示シタル後銃手ヲシテ之ヲ射殺セシム

銃手ハ水兵十二名ヲ撰ビ尉官一名之ヲ指揮ス可シ囚人ハ其目ヲ蔽ヒ柱ニ背テ坐セシメ紐ヲ以テ繫縛ス

銃手ハ六人ヲ前列トシ六人ヲ後列トシ囚人ヲ距ル十歩ノ地ニ於テ前列ヲシテ囚人ノ眉間ヲ狙ヒ一聲ニ發射シテ之ヲ擊タシム若シ死ニ至ラサル時ハ後列ヲシテ同シク之ヲ擊タシム

刑場ハ水兵若クハ憲兵ヲシテ警戒ヲ爲サシメ執行ニ關スル者ノ外入ルコトヲ許サス但主理ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

警戒ノ兵員ハ主理ノ請求ニ因リ艦船營長若クハ憲兵隊長之ヲ出ス可シ死刑ノ遺骸ハ便宜ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ之ヲ下付ス可シ

左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

- 元始祭 孝明天皇祭 紀元節
  - 春季皇靈祭 仁孝天皇祭 神武天皇祭
  - 六月大祓 秋季皇靈祭 神宮神嘗祭
  - 天長節 後桃園天皇祭 新嘗祭
  - 光格天皇祭 十二月大祓
- 主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者ハ宣告書ノ謄本ト共ニ主理ヨリ地方

○第六類○治罪法○罪犯取扱行刑ニ關スル手續方法 下八百九



警察署ニ送致ス可シ

罰金科料ヲ限内納完セサル者ハ主理其裁判宣告書ニ依テ直チニ之ヲ輕禁錮拘留ニ換ヘ監獄署長ニ艦船ニ在テ通知シテ其執行ヲ爲ス可シ但艦内ニ於テ主理在ラサル時ハ艦船長部下ノ將校ニ命シテ處分ヲ爲サシム可シ罰金科料ノ宣告ヲ受ケタル者納完セサル前ニ死去シタル時ハ之ヲ徵收セ

監視及ヒ特別監視ニ付スル者海軍ノ名籍ヲ除カレサル間ハ別ニ監視法ヲ用フルニ及ハス

假出獄ヲ許サレタル者艦船營ニ在ルキハ其艦船營長ヨリ戴罪服務ヲ命スルヲ得

帶勳者罪ヲ犯シ公權ヲ剝奪又ハ停止シタル者及ヒ褒章條例第四條ニ依リ褒章ヲ沒收シタル者ハ其裁判宣告書ノ謄本ヲ以テ主理ヨリ鎮守府長官艦東京軍法會議判本省へ届出ツ可シ隊長ヲ經由シテ

但剝奪公權褒章沒收ノ者ハ主理其勳記勳章年金票褒章等ヲ收奪シ本省へ差出ス可シ

犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判宣告ヲ爲スマテニ所有主ヲ發見セサル時ハ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ宣告ヲ爲

ス可シト雖モ右ノ物件ハ榜示又ハ新聞紙其他適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告シ一年間ニ所有主ヲ發見シタル時ハ主理直チニ之ヲ還付ス可シ若シ主理ニ於テ保存ス可カラサル物件又ハ保存スルニ付キ費用ヲ要ス可キ者ト思料シタル時ハ之ヲ公賣シ其代價ヲ保存ス可シ但艦内ニ於テ主理在ラサル時ハ艦船長部下ノ將校ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ軍中若シハ臨戰合圍ノ地ニ於テ前項ノ處分ヲ爲ス可ハサル時ハ直チニ之ヲ沒收スルヲ得但艦船内ニ於テモ亦本項ノ例ニ依ルヲ得

○第八款 海軍監獄則

明治十七年五月海軍省丙第八十号達

海軍監獄則目錄

- 第一章 總則
- 第二章 監署ノ規程
- 第三章 監獄ノ構造
- 第四章 役法及ヒ時限
- 第五章 工錢
- 第六章 給與
- 第七章 疾病及ヒ死亡

○第六類○治罪法○海軍監獄則



第八章 書信及ヒ接見

第九章 差入品

第十章 揭示

第十一章 賞譽

第十二章 懲罰

海軍監獄則

第一章 總則

第一條 海軍監獄ヲ別テ左ノ三種ト爲ス

一 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス又拘引セラレタル者ヲ一時留置スルヲ得

二 輕禁錮場 輕禁錮若クハ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス又懲治人ヲ一時留置スルヲ得但他ノ拘禁者ト區別ス可シ

三 重禁錮場 重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

地方監獄ニ送致ス可キ已決囚ヲ一時拘禁スル時ハ其定役ノ有無ニ從ヒ重禁錮場若クハ輕禁錮場ニ拘禁ス可シ

第二條 在監人ト稱スルハ未決已決ヲ論セス監獄ニ拘禁若クハ留置セラレタル者ヲ謂フ

第三條 艦船内ニ於テ未決已決ノ者ヲ處置スルモ亦本則ニ從フ可シ但實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ艦船長適宜之ヲ處置スルヲ得

第二章 監署ノ規程

第四條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ處分スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

第五條 新ニ入監スル者アル時ハ監獄署長先ツ送狀拘引狀収禁狀處刑宣告書等ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ領収ノ證ヲ引致シ來リタル者ニ交付ス其文書ナキ者ハ之ヲ入監ス可カラス

第六條 未決ノ共犯者ハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法廷ニ押送スル時亦同行セシム可カラス但判士長判士若クハ審問委員別異ヲ要セストスル時ハ此限ニ在ラス

第七條 在監人ハ左ノ區別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 准士官以上ノ軍人及ヒ同等ノ軍屬并生徒

二 下士及ヒ同等以下ノ判任軍屬

三 卒准卒及ヒ等外吏以下ノ軍屬

四 常人

陸軍々人軍屬ハ海軍々人軍屬ノ區別ニ從フ

○第六類○治罪法○海軍監獄則



第八條 入監ノ婦女ハ男子ト監房ヲ別異ス可シ若シ三歳未滿ノ乳兒ヲ携帶セント請フ者アル時ハ之ヲ許ス

第九條 新ニ入監スル者アル時ハ名籍ノ標本ニ照シ其要項ヲ録シ一小房内ニ於テ全身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒ク可シ

第十條 入監人ノ携有スル財貨物品ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ監獄署長證印シテ之ヲ領置シ解放ノ時還付ス可シ但點檢ノ際隱匿セシ財物ハ之ヲ沒收ス

其領置ノ財物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フ時ハ之ヲ許ス

第十一條 監倉ニハ刑法及ヒ治罪法ヲ備置キ未決者ノ請求ニ從ヒ之ヲ貸與ス可シ

在監人書籍ヲ看ント請フ時ハ軍人軍屬ノ職務若クハ修身營業ニ必用ナル者ニ限リ之ヲ許ス可シ

第十二條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ監倉ニ拘禁シタル時ハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フ可シ其着衣ノ外襟ニ白布ヲ縫着シ番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム

第十三條 在監人ヲ他監ニ移ス時ハ其名籍并ニ處刑ノ宣告書其他必要ノ文書及ヒ領置ノ財物ヲ具シテ送致ス可シ押送人ハ送致ヲ受クル所ノ司獄官吏ニ發遣途中ノ行狀ヲ申告ス可シ

在監人ヲ法廷又ハ他監ニ押送スル時ハ時宜ニ因リ戒具ヲ用フ可シ准士官以上ノ軍人若クハ同等ノ軍屬ヲ押送スル時ハ成ル可ク乗車セシメ人目ニ觸レサラシムルヲ要ス

婦女ヲ押送スル時ハ男子ト別異ス可シ

第十四條 特赦ヲ受ケタル者アル時ハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ於テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ告示シ仍ホ之ヲ揭示ス可シ

第十五條 在監人ヲ賞罰シタル時ハ賞罰簿ニ其氏名及ヒ賞罰罰文ヲ記載シ第十四條ノ例ニ依リ囚徒ニ示ス可シ

第十六條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ク可カラス

第十七條 死刑ニ處セラレ又ハ在監中死亡シタル者アル時ハ領置シタル財物ヲ死者ノ親屬ニ下付シ若シ親屬ナキハ遺骸ヲ領収シタル故舊ニ下付ス可シ

親屬故舊遠隔ノ地ニ在テ許多ノ遞送費ヲ要スル時ハ賣却シテ其代價ヲ



送致スルヲ得

遞送ノ費用ハ領決スル者ヨリ之ヲ償却セシム可シ

其財物若シハ代價ヲ領收ス可キ親屬故舊ナキ時ハ之ヲ沒收ス

第十八條 在監人逃走シタル時領置ノ財物ハ第十七條ノ例ニ從ヒ處分ス

可シ但逃走ノ日ヨリ滿一年ノ後ニ非サレハ之ヲ處分スルヲ得ス

第十九條 水火風震等罹災ノ虞アル時ハ監獄署長又ハ警查長其形勢ヲ量

リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシム可シ但急激ニ際シ押送スルノ

違ナキ時ハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第二十條 監倉禁錮場共ニ一區域内ニ在ル者ハ墻壁ヲ以テ之ヲ區畫ス

第二十一條 甲監房ニ在ル者ト乙監房ニ在ル者ト彼此交談シ又ハ物件ヲ

交遞スルノ便ヲ得サラシム可シ

各監房ノ鑰匙ハ其制式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス

第二十二條 監獄内ニ病室及ヒ閤室ヲ設ク其閤室ハ暗ニ空氣ヲ流通セシ

メ毫モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス且ツ一室一人ヲ限リトス

第二十三條 燈火ハ監房外ニ置キ危險ノ虞ナカラシム可シ

第四章 役法及ヒ時限

第二十四條 定役ニ服スル囚徒ノ作業ハ每囚一日ノ科程ヲ定メ服役セシ

ム十六歳未滿ノ者及ヒ病後ノ疲勞等ニ因テ勞作ニ堪ヘサル者ハ其體力

ニ應シ科程ヲ寛恕ス

其作業ハ成ル可ク平生ノ職務ニ要用ナル工事ヲ撰ミ之ニ服セシム可シ

輕禁錮ノ囚徒作業ヲ爲サント請フ者アル時ハ之ヲ許スヲ得

第二十五條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整

列セシメ警查長及ヒ警查點檢ス可シ還房セシムル時モ亦同シ

第二十六條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日

一月二日

元 始 祭

孝明天皇祭

紀 元 節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

○第六類 ○治罪法 ○海軍監獄則



神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

第二十七條 未決者及ヒ作業ヲ爲サ、ル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム又毎日一時間以内監房外ニ於テ運動セシム可シ

第二十八條 作業ヲ爲ス者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ喫飯セシム其起床ヨリ約一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前十時前後ニ於テ湯若シハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス午飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前役ヲ罷メシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ因リ其時間ヲ伸縮スルコトヲ得  
起床還房就役休役罷役其他動止ヲ命スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第二十九條 造船所其他工場ノ役ニ服セシムル時ハ第二十八條ノ例ニ拘ハラズ成ル可ク其工場ニ定メタル時限ニ從フ可シ  
第五章 工錢

第三十條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ其八分ヲ監獄署ニ收メ其二分ヲ與フ

定役ニ服セサル囚徒ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監獄署ニ收メ其七分ヲ與フ

第三十一條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期一百日以内ハ工錢ヲ給與セズ

第三十二條 在監人ニ與フ可キ工錢ハ監獄署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシム可シ

第三十三條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢若クハ官署ノ定則ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シ之ヲ定ム可シ

第三十四條 監獄署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルコトヲ許シ又書籍其他必用ノ物品及ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但其食物

ハ定役ニ服スル者ハ一日金三錢定役ニ服セサル者ハ一日金五錢ヲ限リトス

第三十五條 在監人死亡シタル時其領置ノ工錢ハ第十七條ノ例ニ照シテ處分ス可シ

第三十六條 在監人逃走シタル時其領置ノ工錢ハ之ヲ沒收ス

○第六類○治罪法○海軍監獄則



第六章 給與

第三十七條 在監人ニ貸與スル物品

一 毛布若クハ蒲團

一 蚊帳

一 莞筵

一 枕

一 手巾

一 蓑若クハ合羽

一 笠

以上ノ貸與品ハ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第三十八條 下士卒及ヒ准卒禁錮若クハ拘留ニ處セラレタル者ハ左ノ獄

衣ヲ着セシム

常衣

一 禪 赭色

一 袴 同

一 綿入衣 同

一 襦袢

一 帶 長四尺三寸

白色

但病室ニ在ル者ハ白色濶袖衣ヲ着セシム

役衣

一 綿入短衣 赭色

一 袴短衣 同

一 禪短衣 同

一 袴股引 同

一 禪股引 同

病室ニ在ルモノハ本條ノ限ニ在ラス

第三十九條 等外吏以下ノ軍屬及ヒ常人ハ其請求ニ因テ第三十八條ノ獄衣ヲ貸與ス

第四十條 各監房常置ノ器具

一 貯水器 木製

一 便器 木製 監房ニ厠圍アルモノハ此器ヲ用ヒス

一 洗手盥 木製

一 飲器 木製

○第六類 ○治罪法 ○海軍監獄則



一睡器 木製

一小桶

一藁帚

一雜巾

第四十一條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ三日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ七日毎ニ一次剪髪ハ二月毎ニ一次剃鬚ハ一月毎ニ一次トス但醫官ノ申出ニ因リ臨時浴湯若クハ剪髪剃鬚セシムルハ此限ニ在ラズ

婦女ノ梳髪ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サズ

第四十二條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澀ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ曬洗ス可カラス

第七章 疾病及ヒ死亡

第四十三條 在監人疾病ニ罹ル時ハ輕重ヲ量リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

第四十四條 病者ノ攝生ニ効アル飲食物若クハ湯藥等ヲ用フルヲ要スル時ハ醫官其旨ヲ證明シ監獄署長之ヲ考檢シテ許否ス可シ

第四十五條 傳染病侵蔓ノ兆アル時ハ其消毒豫防ヲ慎重ニス可シ若シ在

監人中傳染病者アル時ハ速ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫官ノ診斷書ヲ副ヘ海軍卿若クハ所管長官ニ申報ス可シ

第四十六條 在監人死亡シタル時ハ監獄署長警查長醫官會同驗屍ス可シ驗屍畢レハ其狀況及ヒ年月日時ヲ記載シ死亡証書ヲ副ヘ本人所管ノ長官ニ申報シ陸軍々人軍屬ナル時ハ其所管官司ニ通報シ軍人軍屬ニ非サル時ハ本籍ノ戸長及ヒ親屬若クハ故舊ニ通知ス可シ

未決者又ハ已決囚ニシテ再ヒ訊問ニ係ル者ハ其軍法會議ニモ亦之ヲ通報ス可シ

第四十七條 軍人軍屬在監中死亡シタル者ノ遺骸ヲ處分スルハ通常軍人軍屬ノ遺骸ニ同シ

陸軍々人軍屬ノ遺骸ハ其所管官司ノ處分ニ付ス可シ

軍人軍屬ニ非サル者ノ遺骸ハ死亡若クハ死刑執行ノ時ヨリ二十四時内ニ請フ者アレハ之ヲ下付シ請フ者ナケレハ之ヲ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツ可シ

第八章 書信及ヒ接見

第四十八條 已決囚其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ六月間ニ一次トシテ一通

○第六類○治罪法○海軍監獄則



ニ過クルヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ信書ヲ要スル時又ハ親屬故舊  
ニ回答ヲ爲サント請ヒ監獄署長必用ト認ムル時ハ此限ニ在ラス

未決者ヨリ贈ル信書ハ定限ナシ

第四十九條 在監人ノ發スル信書ハ監獄署之ヲ閱檢ス可シ若シ書中忌諱

ニ涉ル等ノ文意アル時ハ通信ヲ許サス

第五十條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來ル信書ハ監獄署長之ヲ閱檢シ適正ノ

事項ヲ陳ヘ又ハ遷善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限り之ヲ本人ニ付與ス

若シ在監人ノ修改ヲ妨クルモノト認ムル時ハ之ヲ付與セス

第五十一條 未決者ニ係ル出入ノ信書ハ審問委員若クハ主理ノ閱檢ヲ經

ルニ非サレハ贈答セシムルヲ得ス

第五十二條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ監獄署長之

ヲ緘シ封皮ニ受領ス可キ者ノ住所氏名ヲ書シ海軍某監獄ト記シ之ヲ遞

送ス但郵便稅ハ自辨セシム其自辨スル資力ナキ者ニハ之ヲ許サス

親屬故舊ノ信書ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシム可シ

第五十三條 在監人ニ接見セント請フ者アル時ハ監獄署長先ツ之ニ面接

シテ族籍職業氏名等ヲ訊ヒ其緣由旨趣ヲ詳悉シ己ムヲ得サル事情アリ

テ形狀ノ疑フ可キヲナキ時ハ之ヲ許シ警查長警查並蒞テ面會セシム

但未決者ニ係ル時ハ監獄署長審問委員若クハ主理ニ照會シテ之ヲ許否  
ス可シ

面會ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス若シ面會ヲ請フノ旨趣ニ違フ  
タル談話ヲ爲ス時ハ直ニ停止ス

第五十四條 死刑執行ノ以前又ハ徒流懲役禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒シ地  
方監獄ニ押送スル以前親屬故舊共囚徒ニ面會セント請フ時ハ第五十三  
條ノ規則ニ從ヒ面會セシム但其時間ハ五十分時ヲ過クルヲ得ス

第九章 差入品

第五十五條 未決者ニ其親屬故舊ヨリ書類寢具衣服用紙若クハ飲食物ヲ  
贈ラント請フ時ハ酒類煙草及ヒ攝生ニ害アル者ヲ除クノ外之ヲ許ス但  
書籍ハ第十一條ニ記載シタル者ニ限り飲食物ハ炊煮ヲ要セサル者ニシ  
テ一人一食ノ量ニ限ル

第五十六條 已決囚ニハ第五十五條ニ掲クル衣服書籍及ヒ用紙ノ外差入  
ヲ許サス

第十章 揭示

第五十七條 各監房ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシム可  
シ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀

○第六類○治罪法○海軍監獄則



ニ聽カス可シ但未決監ニハ第九款ヲ揭示セズ

揭示

- 一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守ス可シ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トス可シ
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜ス可シ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁厠間ヲ掃除ス可シ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ唾器外ニ唾シ貯水ヲ濫用スルヲ禁ス
- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ同行ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ談話或ハ發聲或ハ濫リニ起歩スルヲ禁ス
- 一 晝間ト雖モ放歌喧噪或ハ高聲ニ誦讀シ又ハ隣房ノ者ト談話スルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似ノ惡戯ヲ爲シ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被テシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ到ルヲ禁ス

到ルヲ禁ス

- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス
  - 一 總テ願向ハ官吏巡視ノ際申出可シ
  - 一 監獄ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ハラズ直ニ看守所ニ通聲ス可シ
  - 一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非サレハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フ可キモノトス若シ劇症ナル時ハ直ニ看守所ニ通聲ス可シ
  - 一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタル時ハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ響器繩ヲ引キ以テ報ス可シ
  - 一 病者アル時ハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致ス可キハ勿論其看病人タラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病ス可シ
  - 一 水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ憲兵部若クハ警察署ニ其旨ヲ首出ス可シ
  - 一 右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者若クハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分ス可キ者ナリ
- 第十一章 賞譽
- 第五十八條 己決囚獄則チ謹守シ且悛改ノ行爲著キ者ト監獄署長ニ於テ認ムル時ハ之ヲ賞譽ス可シ

○第六類○治罪法○海軍監獄則



第五十九條 賞譽セシ者ニハ賞譽毎ニ之ヲ表スル爲メ衣服ノ左袖厚臂間ノ表面ニ横二寸豎一寸ノ赤色ノ布ヲ縫着ス可シ

第六十條 賞表ハ假出獄若クハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲ス可シ得  
第六十一條 賞表ヲ得タル者ニハ二月間ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第六十二條 已決囚在監人ノ逃走ヲ密告若クハ捕獲シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ或ハ人命ヲ救援シタル者アル時ハ金貳拾五錢以下ヲ賞與ス其賞金ハ監獄署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品若クハ食物ヲ購ヒ之ヲ給ス可シ但賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第六十三條 未決監ニ在ル者第六十二條ノ功勞アル時ハ之ヲ録シテ軍法會議ノ參考ニ供ス可シ

第十二章 懲罰

第六十四條 已決囚獄則チ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

- 一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス
- 二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時

限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス  
四 闔室 闔室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ寢具ヲ禁ス

第六十五條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食闔室ハ七晝夜ヲ限ト爲ス

減食闔室七晝夜ニ滿ルモ悔改ノ狀ナキ時ハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルヲ得

第六十六條 懲治人及ヒ十六歲未滿ノ已決囚獄則チ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

- 一 獨慎 晝夜一室ニ獨居セシム
- 二 減食常食ノ半以內ヲ減ス但菜ヲ減セス

獨慎ハ七晝夜以內減食ハ三日以內ト爲ス  
第六十七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケタル者獄則チ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ第六十五條第六十六條ニ準擬シ減食スルヲ得

第六十八條 賞表ヲ有スル者懲罰ヲ受ケタル時ハ賞表一個若クハ數個ヲ褫奪ス

○第六類○治罪法○海軍監獄則



第六十九條 減食若クハ監室ノ罰ニ處ス可キ者アル時ハ醫官ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フ可シ  
 第七十條 屏禁減食監室若クハ獨慎ノ罰ニ處シタル者アル時ハ監獄署長若クハ警査長時々其動靜ヲ察シ狀況ニ由リ醫官ヲシテ之ヲ問ハシムルコアル可シ  
 第七十一條 懲罰ニ處セラレタル者悛改ノ狀著ル、時ハ之ヲ免スルコトヲ得

囚徒服役時限表

月名	起	床就	役	小憩	午飯	罷役	晚飯	還房	服役合計
一月	午前七時〇二分	午前八時〇二分	午前第十時〇五分	正午十二時十分	午後三時三十分	一時二十分	午後四時五十八分	六時二十分	八分
二月	六時三十分	七時三十分	第十時五分	十二時十分	三時五十分	一時三十分	五時二十分	六時五十分	七分
三月	六時〇六分	七時〇六分	同上	同上	四時	一時五十分	五時五十分	七時三十分	九分
四月	五時三十分	六時三十分	第九時四十分	同上	四時三十分	一時五十分	六時二十分	八時三十分	八分
五月	五時〇一分	六時〇一分	第九時三十分	十二時三十分	五時	一時五十分	六時五十分	八時五十分	九分
六月	四時四十分	五時四十分	同上	十二時	五時二十分	一時五十分	七時十四分	九時〇五分	九分

○第六類○治罪法○陸軍監獄署官員服務概則



	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月
節ニ年々早晩	分七時〇八	分六時五十	分六時二十	分五時四十	分五時十六	分四時五十
約テ時刻ヲ出	分八時〇八	分七時五十	分七時二十	分六時四十	分六時十六	分五時五十
以テ時刻ト	間第十時ヨ	同上	間第十時五分ヨ	間第九時五分ヨ	同上	同上
ノ時刻ト	間第十二時五分ヨ	同上	同上	間十二時ヨ	同上	同上
ノ時刻ト	同上	分三時二十	分三時四十	分四時二十	分四時五十	分五時十分
ノ時刻ト	分一時三十	分一時四十	分一時四十	分一時五十	分一時五十	分一時五十
ノ時刻ト	分四時五十	分五時〇八	分五時三十	分六時十一	分六時四十	分七時〇九
ノ時刻ト	分六時十二	分六時十三	分七時〇三	分八時十二	分八時〇四	分八時四十

ア秒リ日々  
刻アリ加  
フ西ルニ東  
國アテ何  
別由テ方  
レノ地モ  
ニ於テ差  
分秒ノキハ  
異ツナキハ  
保ツナキハ  
ス故ニ大月  
毎ニ平大月  
之テ姑ク  
シテ起テ  
其テ起テ  
刻各官此  
ス各官此  
表ノ區分  
ヲ宜ク裁  
シテ裁  
酌シテ裁  
四シテ裁  
シテ裁

○第六類○治罪法○海軍監獄則



現行  
類聚  
日本法律規則大全下卷 畢

明治十七年十月六日出版御届  
同 年十月卅日出 版

定價金三圓

編纂人

岐阜縣平民

高木周次

當時大阪府下東區平野町  
二丁目二十番地寄留

出版人

大阪府平民

岡島眞七

大阪府下東區本町四丁目  
五十九番地

發兌書肆

岡島支店

大阪府下東區備後町  
四丁目三番地



各 地 賣 捌 書 肆

東京日本橋西河岸町	同本町二丁目	同銀座四丁目	西京河原町通二條下ル	同東洞院三條	同四條寺町	同三條寺町	同三條寺町	尾州名古屋本町通	同本町通	同本町通	濃州大垣岐阜町	勢州四日市南町	加州金澤片町
須原鐵二	柳川梅次郎	博聞社	大黒屋書舖	村上勤兵衛	田中次兵衛	杉本甚助	大谷仁兵衛	片野東四郎	石野版舍	小澤吉三郎	岡安慶助	伊藤善太郎	益智館

各 地 賣 捌 書 肆

同安江町	同大聖寺	同小松京町	江州彦根西内大工町	同土橋町	同大津丸屋町	同大津丸屋町	同大津丸屋町	同大津丸屋町	泉州堺神明町	同岸和田北町	紀州和歌山本町二丁目	同小野町	但馬豐岡霞田町	神戶元町五丁目	播州姫路俵町
近田太三郎	金松伊三郎	宇都宮源平	田中伍郎	廣田七次郎	澤田宗次郎	小川儀平	鈴木久三郎	本田庄次郎	平井文助	野田大次郎	由利安助	船井政太郎	山野長平		



44+B-20

各 地 賣 捌 書 肆

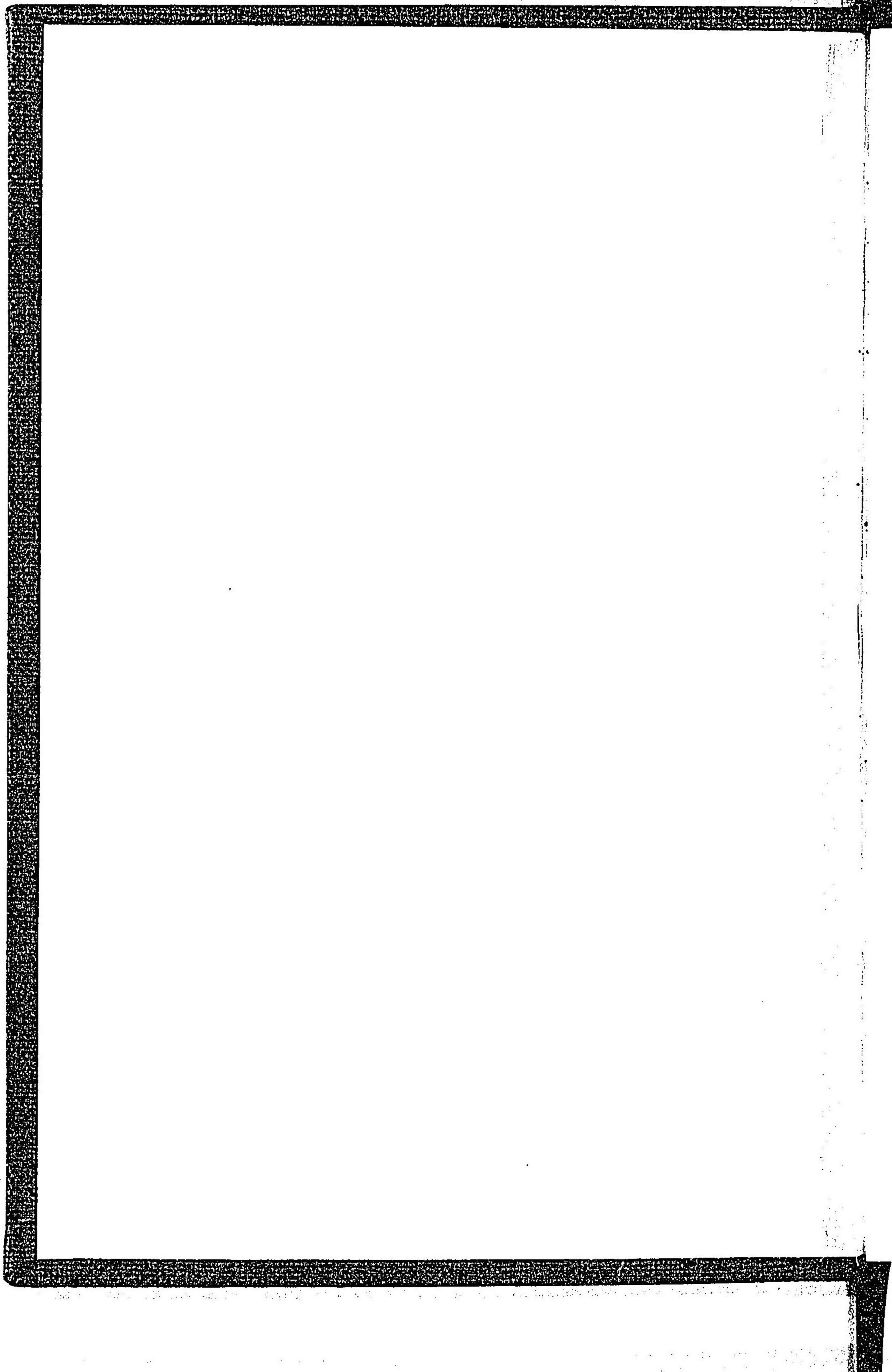
同	備前岡山	中之町	備後尾ノ道土	堂町	藝州廣島大手町	壹丁目	豫州松山港町	四丁目	防州山口	中市町	長州豐浦	中濱町	同萩	瓦町	薩州鹿島六日町	通中町	筑前福岡	橋口町	大阪北久寶寺	四丁目	同	北久太郎町	四丁目	同	安土町	四丁目	同	備後町	四丁目
---	------	-----	--------	----	---------	-----	--------	-----	------	-----	------	-----	----	----	---------	-----	------	-----	--------	-----	---	-------	-----	---	-----	-----	---	-----	-----

本	森	三	早	玉	宮	松	村	吉	山	三	柳	鹿	吉	本	莊	輔	二
藏	禎	木	速	井	川	原	谷	田	崎	木	原	田	岡	莊	藏	助	七
兵	兵	半	治	新	臣	喜	傳	孝	兵	佐	喜	靜	平	藏	助	七	七
衛	衛	兵	郎	治	吉	兵	三	兵	登	助	衛	七	助	七	七	七	七

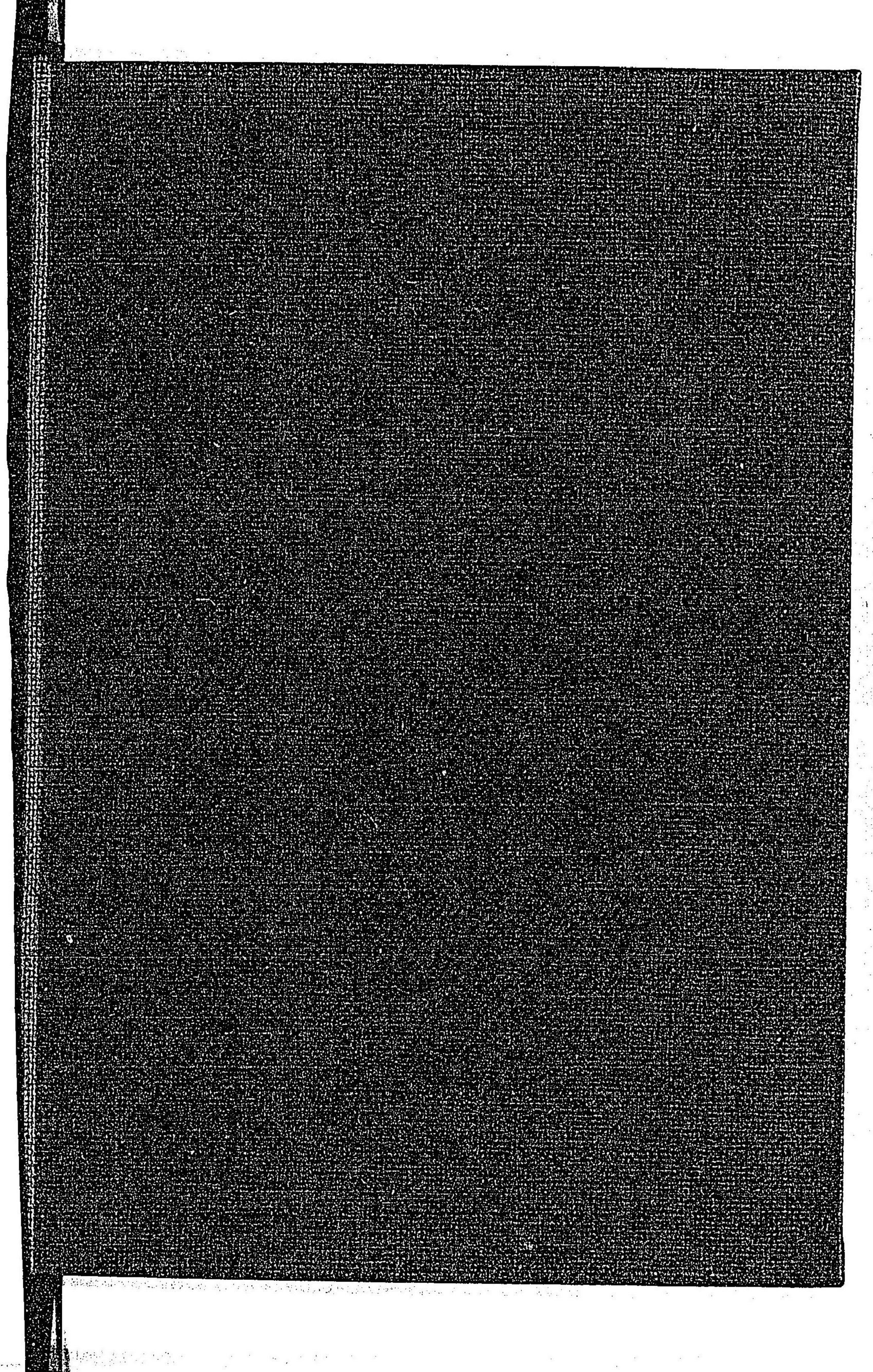
















Seal script characters: 國立中央圖書館藏